

つるせ西だより



～今月の特集～
地域の文化を支える人たち



富士見市★市制施行50周年

第177号(11月号)2022. 11. 1

編集: 鶴瀬西交流センターだより編集委員会

発行: 富士見市立 鶴瀬西交流センター

〒354-0021 富士見市大字鶴馬3575-1

TEL:049-251-2791 FAX:049-255-9707

地域の百景 47

開催できるよろいび

3年ぶりに鶴瀬西交流センターの第17回「フェスティバル」が10月1・2日の2日間開催されました。鶴瀬西交流センターで活動しているさまざまなサークルや団体が日ごろの成果を発表する一大イベントです。開会セレモニーや作品展示、舞台発表、模擬店などたくさんさんの参加がありました。
今回は、例年より規模を縮小しての開催でしたが、たくさん作品と笑顔にあふれていました。

(撮影・文/井之川編集委員)



(上)集会室/ステンドグラスなど

(下左)講座室/子どもいけばななど (下中央)美術工芸室/陶芸など (下右)ホール/舞台発表

まちかどウォッチャング

玄関わきにカポックの花が

関沢2丁目のあるお宅の玄関わきに、カポックの花が咲いている鉢を見つけて、思わずお断りして、写真を撮りました。

カポック(シエフレラ)は茎の先に棒状の穂を出して赤や白、黄の小花を付けます。タコが逆立ちしているような姿から「オクトパスツリー」とも呼ばれています。花を咲かせるまでに20年以上かかるともいわれ、花を見られるのはごく稀なことようです。花が咲いた後は小さな実がつき、最初は黄色、徐々に熟した赤い実になります。

カポックの花言葉は、「とても真面目」「実直」です。育て方が簡単な上、どんな環境でも元気に育ち、丈夫で枯れにくい肉厚な緑の葉っぱを付けます。上に伸びてゆく活発な「陽」の気を持つことから、観葉植物として、ホテル、事務所、病院等に鉢が置かれることが多く、良く見られます。

毎年花を咲かせる樹から見るとなんと地味な樹ではあると思いますが、樹の寿命は何百年、次はいつ花が咲くのでしょうか。(吉田)



(上) カポックの花
(下) カポックの実